

ピットフォールトラップで得られた 知床峠のコメツキムシ類

堀 繁久

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53の2 北海道開拓記念館

知床半島のコメツキムシ類の記録は、高野秀三・外崎誠(1962)が5種、Nakane(1963)が19種報告したのが、まとまった最初の報告と考えられる。それ以降、主に羅臼岳、知床峠など高地を中心に記録が報告されている(太田祐司(1969)、西島浩・保田信紀・岩佐光啓(1985)、宮下公範(1993)、保田信紀・松田光輝・増田泰・下川久美子(1993)、大平仁夫・保田信紀(1993)、飯島一雄(1995)、芳賀馨(1996))。

1997年の7月4日～19日と7月19～25日にかけて、知床峠羅臼側6合目、標高約600mの道路沿いでピットフォールトラップ(Pitfall Trap:以下PTと略す)による地表性甲虫の調査を実施した。トラップには20%の酢酸水溶液を保存液として使用した。そのトラップに多数の興味深いコメツキムシが入ったので報告する。

調査の結果、PTにより9種のコメツキムシ科甲虫が捕獲された。その中には、通常の調査ではなかなか捕獲の難しい種も含まれており、PT法がコメツキムシの調査に有効な手法の一つであることが示唆された

Pitfall Trapにより捕獲されたコメツキムシリスト

エゾヒサゴコメツキ *Hypolithus aeneoniger* (Miwa,1928)
1ex. 19-25.VII.1997

本種を *Ligmargus* 属の種として扱う考えもあるが、ここでは大平(1994)の考えに従って *Hypolithus* 属としておく。

アイヌチビヒサゴコメツキ *Hypnoidus rivalis ainu*
Ohira et Yasuda,1994
23exs. 4-19.VII.1997; 13exs. 19-25.VII.1997. (Fig.3)

宮下(1993)により知床峠から本種は記録されている。また、芳賀(1996)は、知床横断道路の側溝より多数の本種を確認している。今回標本として

残したのは上記の36個体であるが、大量に捕獲されたコメツキムシで、記録は得られた全ての個体数ではない。道内高山帯の優占種で本地域でも最優占種となっている。

アラコガネコメツキ *Selatosomus (Selatosomus) groliosus* (Kishii,1955)

4exs. 4-19.VII.1997; 1ex. 19-25.VII.1997. (Fig.1)

堀・佐々木(1998)でキタミヤママグソコガネの記録とともに知床峠の本種名を記録した。よく知られた寒地・高山系のコメツキムシで、知床峠の標高600m付近の記録は国内では最も低標高の記録ではないかと考えられる。

コガネコメツキ *Selatosomus (Selatosomus) puncticollis* Motschulsky,1866

1ex. 19-25.VII.1997.

道内では山の頂上部の草原などにPTを仕掛けると多数の本種が入るが、知床峠では個体数が1個体のみであった。アラコガネコメツキと同所的に採れたのは興味深い。

キバネツヤハダコメツキ *Hemicrepidius (Yukara) inornatus* (Lewis,1894)

1ex. 19-25.VII.1997.

保田・野田(1985)は、江差牛山で糖蜜トラップに入った本種を記録しているが、酢酸水溶液に誘引された記録は、これが最初と思われる。

エゾクシヒゲヒラタコメツキ *Orithales serraticornis yezoensis* Miwa,1934

10♀. 4-19.VII.1997 (Figs.5-6); 1♂2♀. 19-25.VII.1997.

本種の主な国内分布地は大雪山系～阿寒山系の高標高域と永久凍土帯の限られた地域から知られる種である。柴多浩一氏による、足寄町喜登牛山

標高約1000m地点のPTの記録がある(大平,1993)。今回の調査で13頭の本種がまとまって得られ、しかもその殆どが早であった。本種の発生期や生態を考えるうえで興味深い現象である。

ミヤマコガネヒラタコメツキ *Mosotalesus (Mosotalesus) impressus sachalinensis* (Miwa,1728)

5exs. 4-19.VII.1997 (Fig. 2) ; 1ex. 19-25.VII.1997.

PTによる本種の記録は、柴多浩一氏による陸別町奥斗満林道の3頭が最初の記録で、堀が1994年に実施した置戸の風穴地の調査ではPTにより29頭の本種が記録された(堀, 1996)。亜高山帯や風穴地のPTではかなりの頻度で捕獲されるコメツキムシである。

チャイロヒメコメツキ *Sericus brunneus sachalinensis* (Miwa,1928)

4exs. 4-19.VII.1997 (Fig. 4) ; 1ex. 19-25.VII.1997.

本州中部以北と北海道やサハリン、千島(色丹島)に分布している種で、本州では高山性コメツキの代表種の一つである。道内では高山帯の他、地下凍結層のあるアカエゾマツ林のPT等で得られている。一般の採集ではかなり稀な種であるが、PTでは、複数の個体が一度に得られている。

ウスチャミズギワコメツキ *Oedostethus difficilis* (Lewis,1894)

1ex. 4-19.VII.1997; 1ex. 19-25.VII.1997.

北海道では、各地の雑木林に分布する種である。

最後になりましたが、コメツキムシの同定、文献の入手等、本報文のとりまとめたいへんお世話になった大平仁夫先生に深くお礼申し上げます。

参考文献

- 芳賀馨(1996) 知床峠で採集した甲虫について、*Sylvicola*, Vol.14 釧路昆虫同好会
- 堀繁久(1996)「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書—道東圏域(山岳部)12地域—、第2節4. 昆虫類、北海道環境科学研究センター: 62-83
- 堀繁久・佐々木邦彦(1998) Pitfall Trapで捕獲された北海道のコガネムシ類、*LAMELLICORNIA*, 14: 17-27

飯島一雄(1995) 北海道東部の鞘翅目—コメツキムシ科—釧路市立博物館紀要、第19 釧路市立博物館

宮下公範(1993) 知床半島の甲虫、*Antenna* Vol.1 生物地理研究会

Nakane, T.(1963) A list of Coleoptera from the Shiretoko Peninsula, Hokkaido, Japan (Insecta) The Scientific Reports of Kyoto Prefectural University (Natural Science and Living Science) Vol.3, No.5

西島浩(1985) 知床半島の甲虫類、遠音別岳原生自然環境保全地域調査報告書、環境庁自然保護局: 405-429

西島浩・保田信紀・岩佐光啓(1985) 遠音別岳原生自然環境保全地域において糖蜜トラップで採集された甲虫類、遠音別岳原生自然環境保全地域調査報告書、環境庁自然保護局: 431-443

大平仁夫・保田信紀(1978) エゾクシヒゲヒラタコメツキについて、甲虫ニュース41: 5

大平仁夫(1985) エゾヒサゴコメツキの属名について、甲虫ニュース107: 11-12

大平仁夫・保田信紀(1993) 北海道産チビヒサゴコメツキについて、層雲峡博物館研究報告 14: 1-12

大平仁夫(1993) 北海道とその周辺のコメツキ(VI) *jezoensis* 20: 163-167

大平仁夫(1993) エゾヒラタコメツキの生態、*Elytra*, 21(1):82

大平仁夫・保田信紀(1999) 北海道産に産するコメツキムシ類目録、層雲峡博物館研究報告 19: 1-25

太田祐司(1969) 羅臼岳採集記、エゾシロ、No.41: 21-25 函館昆虫同好会 羅臼岳にでアロコガネコメツキ

高野秀三・外崎誠(1962) 知床半島の昆虫類(I)、知床半島学術調査団報告第I報、帯広畜産大学:61-99

保田信紀・野田佳之(1985) 糖蜜トラップによる江差牛山の甲虫類調査(北海道上川町)、上川町の自然、第10集: 59-70

保田信紀・松田光輝・増田泰・下川久美子(1993) 羅臼岳における地表性甲虫群集の垂直分布、層雲峡博物館研究報告 14: 13-35

Elaterid Beetles captured with Pitfall trapping at Shiretoko pass in Hokkaido.

Shigehisa HORI

Historical Museum of Hokkaido, Konopporo, Sapporo, Hokkaido, 004-0006 Japan

Abstract

Nine species of Elaterid Beetles were captured with Pitfall trapping at Shiretoko pass, Hokkaido. Within the above species, following 5 species - *Hypnoidus rivalis ainu*, *Selatosomus (Selatosomus) groliosus*, *Orithales serraticornis yezoensis*, *Mosotalesus (Mosotalesus) impressus sachalinensis* and *Sericus brunneus sachalinesis* mainly live in particular low temperature environment such as sub-alpine zone or sporadic permafrost. Especially, *H. rivalis ainu* has become the most dominant species. *O. serraticornis yezoensis* which had not been collected a lot, was captured 14 individuals (1 male and 13 females) in this research. In this research, it can be especially mentioned that *Selatosomus (Selatosomus) groliosus* was captured in a very low place from 600m altitude. It was indicated that Pitfall trap method was effective as one of researching methods of Elaterid Beetles.

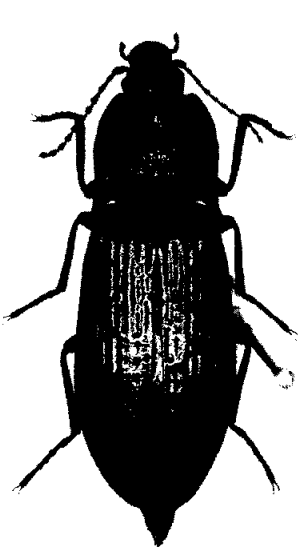


Fig.1

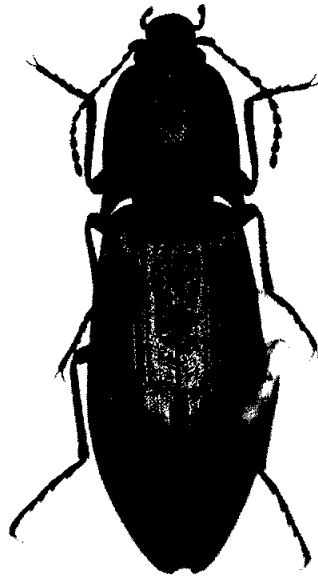


Fig.2



Fig.3

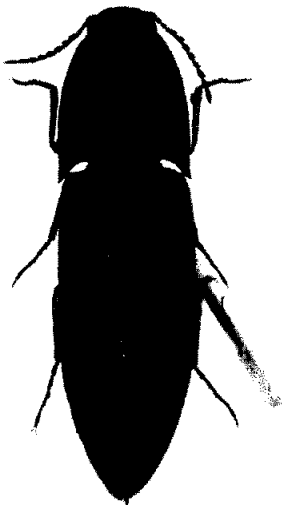


Fig.4

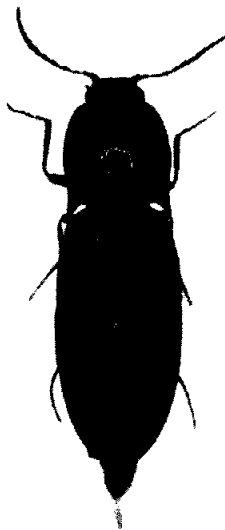


Fig.5



Fig.6

- Fig.1. アラコガネコメツキ *Selatosomus (Selatosomus) groliosus* (Kishii);
Fig.2. ミヤマコガネヒラタコメツキ *Mosotalesus (Mosotalesus) impressus sachalinensis* (Miwa);
Fig.3. アイヌチビヒサゴコメツキ *Hypnoidus rivalis ainu* Ohira et Yasuda;
Fig.4. チャイロヒメコメツキ *Sericus brunneus sachalinensis* (Miwa);
Figs.5-6. エゾクシヒゲヒラタコメツキ *Orithales serraticornis yezoensis* Miwa; 5. female; 6. female, antennae